

「当時、母は戸塚ヨットスクールに入れてるつもりだった。でも例の戸塚ヨットスクール事件が起きて断念、同じスパルタ方式で知られるスイミングスクールに通うことになった」と苦笑いする。そこでは午後6時から2時間、毎日、水泳の猛特訓を受けた。進学校で知られる私立秀明中学高等学校（埼玉県川越市）に入学。そこは中高一貫校の男子校で全寮制。中学生になると授業に励み、成績も学年で上位1桁に入る成績だった。得意科目は社会科で特に地理と歴史に興味を抱いた。

6年間にわたる寮生活は規律ある共同生活を強いられた。朝は6時半に起床、就寝は午後10時半の毎日、中学は4人部屋、高校1、2年は2人

部屋、高校3年になって初めて1人部屋になった。

その後、東京医科大学に入学。大学時代は馬術部、空手部、ピアノサークルの「ショパンソサエティ」に所属した。その一方で、こどものためのボランティア活動をおこなう「児童研究会」や「生物研究会」にも所属した。

ところで齋藤氏が医者としての志したのは小学1年のころだった。親戚の死に遭遇し、「なぜ人間は死ぬのだろう」と考えるようになったのがきっかけだった。「病气や死をこの世に無くす仕事に就きたいと思った」（齋藤氏）。

人のいのちとは何か。高校で物理（量子力学）を学ぶうちに肉体を構成する物質や宇宙（時間と空間）といった、より根源的な事象に思いをはせるようになった。

だが、大学の6年間は勉強に手がつかなくなった時期

二、大学開学以来の「問題児」

があった。「世の中のために、皆が幸せに暮らすために医師として何ができるのか」を考える中で、現代医学の矛盾や世の中の問題に目を向けるようになり、受験勉強や大学での勉強に疑問を持つようになったという。

試験では白紙答案を提出、その結果、落第し留年を余儀なくされた。また両親の事業がうまくいかなかったため、学費を払えなくなり、新聞配達や学習塾の講師、タクシードライバー、警備員、土木作業員などのアルバイトで凌いだ。学業を怠ったことから、学内では大学始まって以来の問題児と言われた。

三、病院再生請負人として来道

大学卒業後は神奈川県徳洲会病院や埼玉県の上尾中央総合病院に研修医として勤務。その後は埼玉県さいたま市岩槻区にある病院に勤務した。



▲長男・力君（右から2人目）、長女・早稲さん（同・3人目）、次男・大希君（同・4人目）、妻・真紀さん（左端）



荒川上流で川遊び▶



医療法人共生会 川湯の森病院

「生老病死」を考え、病院を再生させた元問題児

「死」から「生」を考え「からだ」と「こころ」を診る 真摯に「人生」と向き合う



川湯の森病院・外観

道産カラマツを使ったエントランス

一、泣き虫でひ弱な美少年

医療法人共生会理事長の齋藤浩記さんは1973（昭和48）年に、東京都青梅市で不動産業を営む父母の間の1男1女の長男として生まれた。幼少時代は近所の荒川の上流で川遊びや山遊びに明け暮れた（写真）。

やんちゃ坊主の半面、泣き虫で、よく女の子に間違われる弱々しい少年だった。「母からは「男のくせに情けない。泣くんじゃない」とよく拳骨

トップインタビュー 「創業のこころ」

4つの「共に生きる」を理念に 医療・福祉・介護の連携を構築

理事長 齋藤 浩記氏

保険外・医療外収益で 社会保障費の抑制を

法人の理念は、「共生」と読んで字のごとく、「患者さんおよびその家族と共に」、「スタッフおよびその家族と共に」、「地域社会と共に」、「自然と共に」と大きく4つの「共に生きる」意志が込められています。そのためキーワードが「自給自足」というコンセプト。とくにエネルギーと食については力を注いできました。

超高齢化社会を迎えて、医療・福祉・介護の分野は、これまで以上に重要な役割を果たしています。

「スタッフも充実して、地域に貢献していきな

——スタッフも充実していきな

が求められています。当法人も川湯の森（病院）と清里（診療所）、しらかば（老人ホーム）、つなぎ（障害者支援）の4事業が有機的につながって、医療と介護・福祉とのシームレスな連携の基礎が出来上がりました。今後は超急性期医療から急性期医療、慢性期医療、ターミナル医療、そして在宅までをグループでやる展開を目指したい。また保険外の観光と組んだヘルスケアに力を注いでいきたい。保険外収益と医療外収益を同時並行で進めることで社会保障費の抑制と国富の増大、雇用の創出につながるモデル事業を構築し

県にある精神科の病院の経営を引き継いだものの難しいト

ラブルを抱え、齋藤氏にその精神科の病院の理事長になつてくれるよう頼んだのである。齋藤氏はそれを承諾し、病院の立て直しに取り組んだ。悪戦苦闘の末、トラブルを解決して理事長を辞任。そして2005(平18)年11月に埼玉

県さいたま市でメンタルクリニックの「大宮さいとうクリニック」を開業した。ちなみに齋藤氏は現在、精神科の専門医。「老若男女を問わず、人を相手にするの

ころを無視して診療はできない。からだだけでなく、患者さんの人生と向き合いたい」と考えた。第2の転機が訪れたのが6年の3月のこと。知人の弁護士から北海道弟子屈町の病院の再建を依頼され、川湯の森病院の前身である医療法人平成会川湯温泉病院の運営を引き継ぐことになったのである。引き継いだ当時、川湯温泉病院はすでに複数の訴訟を抱え、診療報酬も差し押さえられて

いた。こちらも再建を果たした。

08年には川湯温泉病院から現在の川湯の森病院に改称、12年4月には新病院を新築移転、木造建ての木のぬくもりを活かした設計にし、地元・川湯温泉の熱とヒートポンプを活用した断熱設備を活用。エネルギーの自給自足を目指し、昨年は太陽光パネルも設置した。健康食に力を注ぎ、米も超低農薬や完全無農薬生産の4農家に生産を委託、敷地内の米蔵に貯蔵。昨年は自前の農園でも米やコーヒの栽培に成功した。一流ホテルの総料理長がプロデュースをし、管理栄養士や調理師が旬の食材を使った病院食を提供。

昨年4月には障害者の自立就労支援を目的とした「社会福祉法人てつなぎ」の理事長に就任。ここでは、廃油による石鹸づくりや温泉熱を利用した菌床椎茸栽培、弁当の配達など幅広い業務を行っている。また自生種の山葡萄を原料とするオリジナルワイン

法人データ

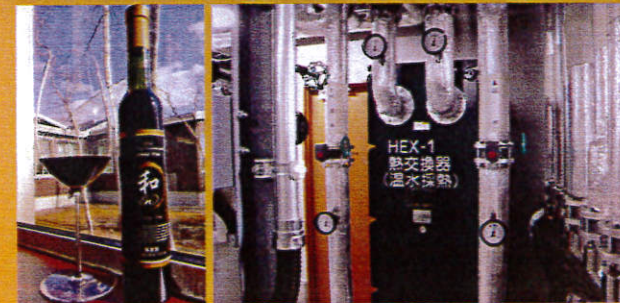
- 病院名/医療法人共生会 川湯の森病院
- 住所/川上郡弟子屈町川湯温泉4丁目8番30号
- 電話/(015) 483-3121
- 診療科目/内科・心療内科・精神科
- 病床数/医療療養病床100床



ええ。当法人には、道内外から優秀な人材が集まっています。対内的にはスタッフに対して「給料倍増計画」を宣言しました。今後とも人材を充実させてスタッフの負担を軽減することで、ライフワ



【清里クリニック】



▲オリジナルワイン「和~en」も生産



▲自前の農園でスイカを栽培

▲温泉熱暖房システム

営を引き継いだ(齋藤氏) の際、「大学時代は問題児だった齋藤が北海道に来て世の中のために頑張っている手助けしてやろうじゃないか」と、齋藤氏の出身である東京医科大学の仲間たちが支

援。清里のクリニックでは東京医科大学の医療安全の三木主任教授(脳神経外科の教授を兼任)がわざわざ応援に駆け付け、同大学の脳神経外科メンバーも清里クリニックの診療を手伝っている。

ひ弱で泣き虫だった齋藤少年が幾多の苦難や挫折を克服して自らを変え、病院を変え、仲間の意識を変えていった。さらに前方にあるのは地域や社会を変えること。齋藤氏の夢は果てない。

イクバランスがとれた運用を行っていく考えです。いつの時代でも変わらない本質を見つめながら継続性、発展性のある事業を展開することで、「自分や大切な人が入院しなくなる病

院」、「自分が勤務したくなる職場」、「自分が学び成長したくなるところ」、「自分が暮らしたくなる地域」を目指してスタッフ一同、邁進していきたいと考えています。



医療法人共生会 理事長 齋藤 浩記氏

(さいとう こうき) 1973年1月20日生まれ、東京都青梅市出身。43歳。東京医科大学卒。精神保健指定医、日本精神神経学会認定専門医。日本医師会認定産業医、日本温泉気候物理学会認定温泉療法医・専門医。米国NLP協会認定トレーナー。